

幸山政史通信
KOHYAMA SEISHI TSUSHIN



人を、暮らしを、命を “つなぐ” “つながる” 新たな熊本の創造

幸山政史



上天草市を訪れると、すでに多くの
方々が集まってお迎えいただき、山積
した課題を聞かせていただいた。
危険なバス停の問題はその後改善
されたとのこと。地域から声を上げる
ことが重要だ。

地域の切実な課題を最優先に

この夏、西日本一帯を襲った記録的豪雨は多大な被害をもたらし、防災の新たな課題が浮き彫りになりました。熊本地震や九州北部豪雨など災害の教訓は多々ありますが、中でも人と人がつながる相互扶助・共助の精神が、再評価されています。私自身も震災後の県内を歩く中で「つないでいく」ことの重要性を実感した次第です。

具体的に「つながる」施策の一つが「公共交通」の充実です。公共交通機関は地域間をつなぎ、人々の生活を支え、

地域活性化にも重要な役割を果たすものです。先日、

公共交通の現状を視察するために上天草市を訪れました。住民にとっての課題は「バス停が路肩に設置されており、待ち合いスペースが狭いためガードレールにもたれかかるようにしてバスを待つしかない」ことです。現場を訪れると、小学校に近い国道沿いにあり、目の前を大型車が砂ぼこりを上げて走行する危険な場所でした。一歩よろければ命に関わる事態にもなりかねません。「少し離れた安全な場所でバスを待つと、運転士が気付かずに通過してしまうことも

ある」と、その思いは切実です。

宇土半島と天草の島々をつなぐ新二号橋開通が報じられたのもちょうど同じ時期のことでした。天草を活性化する起爆剤として期待が高まっています。

このように交通インフラが地域振興に活躍する一方で、先ほどのバス停

地域間格差改善のカギは「公共交通」

県内の公共交通機関の現状をみると、鉄道やバス等の重要な課題として、熊本空港へのアクセス改善が民営化と平行して再浮上してきまし

のような小さいけれど切実な課題は各地に存在しています。バスや鉄道の減便が相次ぐ中、住み慣れた地域から離れざるを得ない人たちが増えてきているのも現実です。今あらためて県内の交通体系についてはさまざまな観点からの将来像を示す時期がきていると思います。

た。また、熊本地震で深刻な被害を受けた南阿蘇鉄道は復旧に向けた一歩を踏み出しています。同じく第三セクターの肥薩おれんじ鉄道はグル



(上)南阿蘇鉄道では、100人の漫画家による応援イラストのラッピング列車「がんばれくまもと!マンガよせがきトレイン」を11月30日まで運行。(右上)5月20日に開通した新一号橋「天城橋」。



命をつなぐために慈恵病院が「こののりのゆりかご」の運用を始めてから11年が過ぎました。ここに至るまで、先進地のドイツがそうであるように内密出産制度の検討が進んでいます。福岡市や大分県では里親制度が普及しており、愛知県では以前より「愛知方式」とも呼ばれる新生児養子縁組みに取り

分野や世代を越えつながる政策を

メ列車が人気を集めており、JR九州が力を入れる観光列車も地域の魅力を高めてくれています。熊本は九州各地を「つなぐ」位置にあり、空路や航路でアジアを

中心とした海外とのつながりも深まっています。人口減少と共に地域間格差の拡大が懸念される中、格差を埋める有効な手段の一つです。

命をつなぐために慈恵病院が「こののりのゆりかご」の運用を始めてから11年が過ぎました。ここに至るまで、先進地のドイツがそうであるように内密出産制度の検討が進んでいます。福岡市や大分県では里親制度が普及しており、愛知県では以前より「愛知方式」とも呼ばれる新生児養子縁組みに取り

組んでおられます。ゆりかごのある熊本だからこそ、救われた命を大切にしないといけないために、何ができるのかを模索しなければと思います。

その他にも、異業種が「つながる」ことで農業にとって深刻な有害鳥獣駆除対策に取り組み動きもあります。大学の研究を民間で起業化することや、後継者不足が深刻化する中で事業承継も重要です。広範囲に、あらゆる分野が世代を越えつながる「ことがカギといえるでしょう。

私には時間がいくらあっても足りません。熊本市長時代と違い、会いたい人と会い、行きたい所に行くことができるからこそ、心が逸ります。肩書きがないからこそ、率直な意見が聞えてくるこの時間はとても貴重です。どうぞ気軽にお声掛けください。皆さまが抱える課題を聞かせてください。その声が明日の熊本を変える礎になります。

今後とも時間が許す限り各地に向いてまいりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

幸山政史が行く!! #8 視察編

課題への提言

熊本地震から2年が過ぎました。幸山政史は地域の方々と共に復興に取り組む一方で、県内各地へ足を運び、さまざまな課題を抱える方々と語り、解決の道を模索しています。今回は、その中からいくつかを取り上げご紹介します。



公共交通

乗り合いタクシーは利用者視点の見直しを



乗り合いタクシー停留所でもある公民館で活発な意見交換。利用者の藤川サチ子さん(写真左から3人目)は83歳。「通常のタクシー代を払って目的地へ直行の方がよか」と笑う。

熊本市では公共交通空白地域(*1)と、乗り合いタクシーを運行しています。利用状況が年間6人しかいない北区小萩地区を訪れました。利用しない理由の一つは、バス停の位置が不便であること。また、路線バスに接続する前提でコースが作成されており、買い物や通院としては利用しにくいのが現状です。

課題

交通空白地域を埋める乗り合いタクシーが運行されるようになったものの、使い勝手が悪く利用者が少ない。

提言

利用者の声を丁寧に汲み取ることが大事。停留所の見直しやコース変更で利用者増も見込めるのでは。

在宅医療

在宅看取りの受け皿整備で医療の現場を、病院から自宅へ



宮崎さん(写真左から2番目)の信条は「空気のような存在でありたい」。過剰にならず、気を使わず、必要な時にはいつでも手を差し伸べられる安心感を提供したいと考えている。「熊本在宅ドクターネット」ホームページでは、在宅医療の情報や医療機関、問い合わせ窓口などを公表している。



熊本在宅ドクターネットはこちら



在宅医療には、医師と患者・家族間の信頼関係の構築が不可欠。「患者さんたちにとって踏み込んではいけな部分もある。遠くから山を見るように俯瞰(ふかん)で見るのが大切」と宮崎さん。

課題

在宅医療の受け皿は整いつつあるものの、介護職等との連携や周知不足、受け皿の地域間格差等が課題。

提言

多職種ネットワーク構築への支援や在宅医療をイメージできる啓発活動の強化により、個人の尊厳を大切に守る。



今後は、在宅医療に従事する介護職等との連携強化、一般の方々へ在宅医療に関する情報周知などの課題にも取り組むとのことです。

「在宅医療は医療の原点。2012年の開業当時、熊本県は在宅看取り率全国最下位で、『2025年問題』(※3)もあり、病院から在宅へ転換を図る時期でした」と語る宮崎さん。「熊本在宅ドクターネット」のネットワークを生かし、医療・歯科・介護などが連携した在宅医療チームによる「在宅看取り」が可能な受け皿を増やす活動に尽力されています。

自宅療養あるいは自宅で最期の時を迎えたいと願う人々へ質の高い在宅医療サービスを提供しようと尽力する、おびやま在宅クリニック院長・宮崎久義さんを訪ねました。



森の都であり、美しい地下水を誇る熊本に新たな魅力を創造する再開発。熊本駅周辺が様変わりした後こそ、真の魅力が問われることになる。

再開発

熊本駅と中心部をつなぐ交通アクセス改善

課題

熊本駅周辺と中心部の棲み分けと回遊性の確保。一極集中を防ぐため県全域への波及効果も大きな課題。

提言

熊本城に象徴される歴史性や水、緑、火の国といった熊本の個性を表現する。交通アクセスの改善は必須。



熊本市中心市街地には、来年商業施設やバスターミナル等の複合施設が、その2年後には熊本駅に隣接し商業施設が完成し、町の様相や人の流れが大きく変化します。九州圏内で福岡都市圏への一極集中が進む中、九州の中心に位置する熊本への吸引力を高めることができるのか、ここ数年は熊本の将来を展望する上で、大切な時期を迎えます。



若い世代にとっても重労働な棚田と水路の維持。熊本地震後、大雨でさらに被害を受けた通潤橋の復旧も課題の一つ。

過疎地域

地域の存続と伝統文化の継承 持続可能な仕組みの構築を

課題

人口減少や高齢化に伴い、棚田の維持だけでなく歴史文化や伝統の継承も困難に。

提言

都市と農村の交流を促進し、子どもたちに農業体験の場を提供。通潤橋や水路の歴史的価値を学ぶ視点に立ち、持続可能な仕組みを構築する。



昨年、復旧ボランティア活動に参加した山都町白糸台地の棚田に今年も足を運び、水路の泥上げや草刈り等の作業に参加しました。高齢化や後継者不足に苦しむ同地域では、広大な棚田とそれを潤す水路の維持・管理に対する不安の声が上がっており、地域の存続と伝統文化の継承について、持続可能な仕組みを考えていく必要があります。

*1:公共交通空白地域・・・バス停からの距離が半径1km以上の地域 *2:公共交通不便地域・・・バス停からの距離が半径500m以上1km未満の地域 *3:2025年問題・・・団塊の世代が後期高齢者になり、国民の3

KOHYAMA'S INFORMATION

幸山政史の“今”を随時発信中!

Facebookページ

熊本県内各地はもちろん全国へと足を伸ばして、さまざまな声を聞き、そこに内在する課題を掘り起こして課題解決への提言を行うなど、幸山政史の活動をFacebookページでご紹介しています。幸山自ら執筆し、投げかける投稿の数々をぜひお読みいただき、ご意見等をお寄せください。



メールマガジン『幸山政史のひとりごと』

幸山政史の活動や事務所からのお知らせをお届けする、メールマガジンです。公式サイトから登録いただくと、幸山自ら綴る思いや提言をお読みいただけます。

Facebookページは
こちら



メールマガジン
登録はこちら



支援者の声

幸山政史を温かく、力強く
応援してくださる方々の思いを
ご紹介いたします。

私利私欲のない 尊敬する政治家

Q 田中 禧幸さん(水俣市)

誠実で、おごることなく真摯な姿勢を貫くのが幸山さんの魅力。これまで県は水俣病への対応が遅く、不知火海沿岸域の健康調査も拒否しましたが、それを「やる」と断言されました。幸山さんは私利私欲の全くない尊敬する政治家です。

住民の視線に合わせて 聞く、見る、語らう魅力

Q 濱邊 志恵さん(上天草市)

常にアンテナを張って県内の“地域の声”をキャッチし、姫戸の小さな集落にも視察に来てくださいました。とても気さくで、私たちに視線を合わせて丁寧に話を聞いてくださいます。住民が抱える身近な課題にも心を寄せてくださる方です。

農業大国の未来を支える 後継者育成の支援を

Q 飯田 尚光さん(菊池郡大津町)

畜産業を営んでいますが、熊本の未来を担う後継者育成は大きな課題の一つです。国の畜産クラスター事業等は利用しやすいように制度の見直しが必要。ぜひ“幸山県政”を実現して、農業全般の育成に力を貸していただきたいですね。

身近な課題解決に期待。 視察活動を応援

Q 高濱 友章さん(宇城市)

市政同様、県政でもぜひその力を発揮していただきたいですね。農業の現場では、鳥獣被害が問題となっています。JAや市も駆除・対策に力を入れています。まだまだこれからです。連日の視察等、お体ご自愛ください。活動応援しています。

グローバルな視点で 行動するリーダーに

Q 明石 祥子さん(熊本市)

幸山さんは、開発途上国をサポートする「フェアトレード(公平貿易)」を首長として支援した先駆者です。国連が定めた「持続可能な開発目標(SDGs)」17項目の解決には県民が自ら動くことが必要。ぜひ推進していただきたいですね。

お申し込み・お問い合わせはこちらまで

幸山政史事務所

〒861-5535 熊本市北区真町378-1

電話

096-245-3525

FAX

096-245-3542

Eメール

jimusho@kohyama-office.com

ホームページ

http://www.kohyama-office.com

転居・住居表記や町名変更、また通信が不要、重複して届いている場合などは、お手数ですが事務所までご連絡ください。